

# 第 39 章

## 3 ニーファイ 1－7 章

### はじめに

エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899－1994 年）は次のように述べている。「〔ニーファイ第三書には、〕救い主が訪れる直前の時代のニーファイ人の歴史が記されていますが、当時とわたしたちが再臨を待ち望んでいるこの時代の間には、数多くの共通点が見られます。」（『聖徒の道』1987 年 7 月号、4 参照）アメリカ大陸に救い主が御姿を現される前まで確固として信仰を保つことができたのは、揺るぎない証を持ち、完全に改宗した人たちだけであった。同じことがわたしたちの時代にも言える。主の再臨の前まで確固として信仰を保つことができるのは、揺るぎない証を持ち、完全に改宗した人たちだけであろう。試しの多いこの現代にあって、救い主に忠実であり続けるためには支えとなる力が必要である。3 ニーファイ 1－7 章を注意深く研究すると、その力を得ることと、イエス・キリストに対する証を持ち、イエス・キリストの福音に改宗することとの関係が理解しやすくなる。

### 注解

モルモン書の各書の長さや期間の範囲を比較することは有益であろう。付録から「モルモン書のページ数と期間」の表（395 ページ）を参照する。

### 3 ニーファイ 1 章 預言の成就

●レーマン人サムエルの預言したしるしを信じている人たちが殺されると敵に脅迫されたとき、ニーファイは力を込めて主に祈った。その祈りにこたえて、主はキリスト降誕のしるしはまさしくその夜に現れるので恐れることはないと言われた。サムエルの預言がすべて成就したことは、記録に詳しく記されている（269－270 ページにあるヒラマン 14 章の注解に掲載されている表を参照）。



### 3 ニーファイ 1:1 ニーファイ人が用いた暦の仕組み

●モルモン書の全期間を通じて、ニーファイ人は暦で時間を測定するのに 3 つの異なる基準点を用いている。

基準点	使用したとき	聖句ブロック
リーハイがエルサレムを去ったときから	紀元前 600－92 年	1 ニーファイ 1 章－モーサヤ 29 章
統治が王からさばきつかさへと移ったときから	紀元前 92－紀元 1 年	モーサヤ 29 章－3 ニーファイ 1 章
イエス・キリスト降誕のしるしのときから	紀元 1－421 年	3 ニーファイ 1 章－モロナイ 10 章

注意——イエスの降誕に際して、しるしが与えられた。しかし、紀元 9 年までその時が基準点として用いられることはなかった。

### 3 ニーファイ 1:29 わたしたちは真理から迷い出ないようにしなければならない

●3 ニーファイ 1:29 は、たった一世代の間に背教が起こることを明らかにしている。そこには信仰篤い両親のもとに生まれ育った子供たちが迷い出て、「偽りとへつらいの言葉に惑わされ、あのガデアントンの強盗の仲間になった」悲しい話が記されている。

大管長会のヘンリー・B・アイリング管長は次のように教えている。「教会の未来は、……若人次第です。教会はこれまでいつも一世代で消滅してしまうかもしれませんでした。一世代がすべて道に迷えば、（そのようなことは起こらないと思いますが、）わたしたちの教会はなくなるでしょう。しかし、たとえ一人でもイエス・キリストの福音からそれる人がいるとしたら、その人に続く何世代もの子孫は、主が手を差し伸べてその幾人かを連れ戻さないかぎり、福音への門を閉ざされることになるでしょう。」（“We Must Raise Our Sights” [モルモン書に関する教会教育システム大会、2001 年 8 月 14 日]、1。LDS.org の [gospel library/additional addresses/CES addresses](http://gospel.library/additionaladdresses/CESaddresses) 参照）

●ゴードン・B・ヒンクレイ大管長（1910－2008 年）は、真理から迷い出ないための方法について現代の若人に助言を与えている。

「わたしたちの若人、この時代の榮えある青少年に申し上げます。どうか忠実であってください。信仰から離れないでください。正しいと知っていることは、断固として譲らないでください。

皆さんは恐ろしいほどの誘惑に直面しています。その誘惑は、人気のあるエンターテインメントの会場やインターネッ

ト、映画、テレビ、低俗な文学作品、その他の方法で皆さんを襲い、巧妙で、快感を与え、抵抗し難いものです。友人からのプレッシャーは抗しがたいほど強いことでしょう。それでも、愛する友である若人の皆さん、誘惑に負けてはいけません。強くなければなりません。目の前にある魅力的な誘惑に屈するのではなく、将来に目を向けなければなりません。……

……皆さんはこれまでで最もすばらしい世代です。福音をよりよく知っています。自分の義務をより忠実に果たしています。出遭う誘惑に立ち向かう、より強い力を持っています。自分の標準に従って生活してください。主の導きと守りを祈り求めてください。主は皆さんを決して一人にはされず、慰め、支えてくださるでしょう。祝福し、強め、皆さんの報いを甘く美しいものとしてくださるでしょう。そして皆さんは、人が皆さんの模範に引き付けられ、その強さから勇気を得ることに気づくでしょう。」(『リアホナ』2003年11月号、83-84 参照)

### 3 ニーファイ 2:1-2 民はかつて与えられた数々のしるしを信じなくなった

• キリスト降誕のしるしが与えられるやいなや、サタンは民の心をかたくなにするために偽りを広めた(3 ニーファイ 1:22 参照)。その影響が即座に出たわけではなかったが、間もなくして多くの民の「心はかたくなになり、思いはくらし、彼らはかつて見聞きしたすべてのことを信じなくなった。」(3 ニーファイ 2:1)

十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老(1926-2004年)は、わたしたちの信仰もサタンの攻撃にさらされることがあると教えている。「[サタンは]霊的に特別な経験をした人の心にも実に速やかに入り込んで来ます。しるしを目にした人が『かつて見聞きしたすべてのことを信じなく』なるように働きかけるのです(3 ニーファイ 2:1-2)。もしわたしたちが仲間から愚かだと思われないかと心配するなら、おまえは愚かなことを信じているというサタンの言葉に言い負かされることにもなりかねません。」(Things As They Really Are [1978年], 41)

しるしと救いに関連して、信じる者はどのような教訓を学ぶべきだろうか(教義と聖約 63:8-12 参照)。しるしは信仰から生まれる。しるしは信仰の産物なのである。しるしは忠実な者を強め、御霊を受け入れる人の心に信仰をはぐくむ。しかし、しるしのおもな目的は信仰をはぐくむことではなく、信仰に報いを与えることである(教義と聖約 68:9-11 参照)。しるしはだれにも信仰を強要するものではない。残念なことに、聖典の中でも、今日の世界においても、神の



力を示す最も驚嘆すべきしるしと証拠が、信仰のない人たちによってないがしろにされたり、合理的ではないとして退けられたりしている。

### 3 ニーファイ 2:1-3

これらの人々はどのような説明を加えてキリスト降誕のしるしを否定しようとしたか。彼らの不信仰は何をもたらしたか。信仰は行動にどのような影響を与えるか。

### 3 ニーファイ 2:1-4 邪悪な人たちもしるしを見ることがあるのはなぜだろうか

• 聖文を読むと、主が時として邪悪な人たちにもしるしをお与えになった幾つかの理由が分かる。

預言者の正当性を証明するため。ヒラマンの息子ニーファイが大さばきつかさの死に関して民に与えたしるしは、ニーファイが正しいことを明らかにした(モーサヤ 20:21 参照)。

邪悪な人たちに弁解の余地を残さないため。しるしを与えられた後、邪悪な人たちは自分たちの行動に対して全責任を負わなければならない。主はこう言われている。「しるしを求める者はしるしを見るが、救いには至らない。」(教義と聖約 63:7)

預言者の言葉が正しいことを示すため。邪悪な人たちは預言者の誤りを証明しようとするので、主は時として疑う余地のないしるしを示される(ヒラマン 9:2-4 参照)。

邪悪な人を責めるため。邪悪な人たちがしるしを見ると、それは主の怒りによるものであり、彼らを責めるためのものである(教義と聖約 63:11 参照)。救い主はこう言ってお

られる。「邪悪で不義な時代は、しるしを求める。」(マタイ 12:39)

### 3 ニーファイ 3 - 4 章 肉体と霊の備え

• ギデアンハイの言葉には明らかにサタンの影響が見て取れる(3 ニーファイ 3:1-10)。ギデアンハイは邪悪な計画を遂行するためにへつらい(2 節)、関心を装い(5 節)、守ることのできない約束をした(7-8 節)。自由を与えるというギデアンハイの約束は悪魔の約束に何とよく似ていることか。ギデアンハイに提供できるものと言え、束縛と、元々自分のものではないので分かち合えないようなものを分かち与えるという約束、この二つだけだったからである(7 節参照)。

ラコーニウスはすぐさま自分の民に心を向けた。民がギデアンハイ率いる強盗団の迫り来る攻撃に対して物質的、霊的に備えなければならぬことを知っていたからである。ラコーニウスは民に堅固なとりでを築かせ(14 節)、家畜と家族(13 節)を一か所、すなわちゼラヘムラに集めさせた(22-23 節)。さらには武器とよろいを作らせ(26 節)、7 年分の食糧を集めさせた(3 ニーファイ 4:4)。そして民に自分たちが捨てた土地を「荒れ果てる」に任せるよう指示を出した。強盗たちが食べ物をあさることができないようにするためであった(3-4 節)。

最も大切なことは、ラコーニウスが民に霊的な備えをさせたことである。ラコーニウスは悔い改めることによって得られる守りについて民に思い起こさせた(3 ニーファイ 3:15)。その結果、民は悔い改め、主に力強く祈った(25 節; 4:8)。その結果、彼らは迫り来る敵の攻撃に物質的にも霊的にも賢明に備えることができた。

• 現代に住むわたしたちは迫り来る災難に対して物質的および霊的な備えをするように勧められている。十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、救い主の再臨に先立って起こる様々な出来事に備えるためにわたしたちは何をすべきか教えている。

「もし主が明日来られるとしたらどうでしょうか。早すぎる死や予期せぬ主の来臨によって、明日主にお会いすることが分かったなら、わたしたちは今日何を<sup>きょう</sup>するでしょうか。何を告白するでしょうか。どのような習慣を断ち、どのような問題を解決し、どのような赦<sup>ゆる</sup>しの手を差し伸べるでしょうか。また、どのような証<sup>あかし</sup>をするでしょうか。

主の来臨のときにそうするのであれば、なぜ今しないのでしょうか。得られるときに平安を求めないのはなぜでしょうか。備えのランプが消えかかっていたら、すぐに油を補充しましょう。

再臨のときに起こると預言されている事柄に対して物質的および霊的な備えをする必要があります。最も怠りがちな備えは、目に見えにくく、より難しい霊的な備えです。……

主の命令に従っているでしょうか。『主の日が来るまで、あなたがたは聖なる場所に立ち、動かされないようにしなさい。見よ、その日はすぐに来る……。』(教義と聖約 87:8) この『聖なる場所』とは何を指すのでしょうか。神殿とそこで交わす聖約を忠実に守ることはもちろん含まれるでしょう。また、子供を大切に育て、両親を敬う家庭もそうです。伝道の召し、あるいは支部、ワード、ステークで忠実に果たされる召しなど、神権の権能によって与えられる召しも、聖なる場所に含まれます。』(『リアホナ』2004 年 5 月号, 8-10)

### 3 ニーファイ 4:10 神への信仰は恐れを克服する

• ニーファイ人はギデアンハイの強盗団と対戦するために物質的および霊的な備えをした。敵は誤解したが、主への従順を示す最後の行為として、ニーファイ人は地に伏して、主に叫び求めた。それから彼らは立ち上がり、神への信仰をもって敵と対戦した(3 ニーファイ 4:8-10 参照)。わたしたちも敵に対抗して立ち上がり、恐れを神への信仰に置き換えることができる。

十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は、現代の試練に立ち向かうために必要な信仰について次のように書いている。「来るべき苦難のために自分や家族を備えるには、恐れを信仰に置き換えなければなりません。わたしたちに対抗し、脅威を与える敵への恐れを克服できるようにする必要があります。主は言われました。『それゆえ、小さい群れよ、恐れてはならない。善を行いなさい。この世と地獄をあなたがたに対して連合させなさい。あなたがたがわたしの岩の上に建てられるならば、それらは打ち勝つことができないからである。』(教義と聖約 6:34)」(『リアホナ』1990 年 1 月号, 35)

### 3 ニーファイ 5:1-3 信仰は悔い改めとすべての善き業をもたらす

• 七十人定員会会員として奉仕していたとき、ジョン・H・グローバグ長老は信仰と悔い改めの関係について次のように説明している。

「深く考えると、イエス・キリストを信じる信仰という第一の原則が、ほかの全部の原則の基礎になっていることが分かります。すなわち、悔い改めたり、バプテスマを受けたり、そのほかどんな福音の儀式を行ったりするにも、キリストへの信仰が必要なのです。救いに導く悔い改めを可能にされたのはイエス御自身であり、バプテスマに意義を吹き込まれ



たのもイエスです。主を信じる信仰があれば、悔い改めてバプテスマを受けます。

もし悔い改めもバプテスマも拒み、戒めを守ろうとしないとするれば、それは主に対する信仰が足りないからにはほかならないのです。悔い改め、バプテスマ、そのほかすべての原則と儀式は互いにまったく分離したものではなく、実際はキリストを信じる信仰の延長線上にあるのです。主に対する信仰なしに永遠に価値のある事柄を行うのは不可能です。主に対する信仰があれば、永遠に価値を持つ事柄の実践に生活の中心が置かれるようになります。』（『リアホナ』1994年1月号、31）

3 ニーファイ 5 : 1 – 3 ; 6 : 4 – 5  
この民は何をはっきりと知っていたか。  
モルモンはニーファイ人が栄えるのを妨げる  
唯一のものは何であると言ったか。

### 3 ニーファイ 5 : 13 「イエス・キリストの弟子」

●モルモンは自分のことをキリストの弟子と呼んだ。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長（1876 – 1972 年）はモルモンの召しの性質について次のように説明している。「いつどのようなときにも、ニーファイ人の十二使徒は弟子と呼ばれるが、彼らが自分たちの民の間でキリストの特別な証人となる神聖な権能を授かっていた事実には変わりはない。したがって、彼らは文字どおりニーファイ人にとって使徒であった。ただし、彼らの管轄は、ニーファイに啓示されたように、最終的にはペテロおよびパレスチナで選ばれた十二使徒の権威と管轄の下にある。」（*Answers to Gospel Questions*, ジョセフ・フィールディング・スミス・ジュニア編、全 5 巻〔1957 – 1966 年〕、第 1 巻、122）



モルモンの個人的な召しは、使徒の召しであったが、弟子という言葉には、もっと一般的な定義もある。弟子とは「イエス・キリストに従い、その教えのとおり生活をする人（教義 41 : 5）」でもある（『聖句ガイド』『弟子』の項）。

十二使徒定員会の L・トム・ベリー長老はさらに次のように説明している。

「以下は、弟子について書かれたものです。

『弟子という言葉は、学習者〔を意味する〕ラテン語に由来している。キリストの弟子とは、キリストのようになること、つまりキリストのように考え、感じ、行動することを学ぼうとしている人のことである。真の弟子になること、つまり今述べた学習課題を遂行することは、人の知るかぎり最も過酷な訓練なのである。必要条件においても、報いにおいても、この訓練に匹敵するものはない。弟子となるには、生まれながらの人から聖徒へ、全人格的な変化を遂げることが必要である。すなわち、心と、勢力と、思いと、力を尽くして主を愛し、主に仕える人となるのである。』（ショーンシー・C・リドル、‘Becoming a Disciple,’ *Ensign*, 1974 年 9 月号、81）」（『リアホナ』2001 年 1 月号、73 参照）

弟子とは何かについて語ることに加えて、モルモンはここで単なる使徒としてだけでなく、イエス・キリストの弟子としての権能についても述べていると思われる。

### 3 ニーファイ 5 : 22 – 26 末日における集合の意味

●ダリン・H・オックス長老はこの集合の意味と目的について次のように説明している。

「もう一つの時のしるしは忠実な人々の集合です（教義と聖約 133 : 4 参照）。この最後の神権時代の初期には、カートランド、ミズーリ、ノーブー、山々の頂など、合衆国の様々な場所でシオンの集合が行われました。これらの集合は、すべて将来に神殿が建てられる場所で行われたのです。」



LDS 教会出版部管理の厚意により掲載

多くの忠実な教会員がいるほとんどの国においてステーキが誕生し、神殿が建設されている今、わたしたちは一つの場所に集合するのではなく、自国のステーキに集合するよう命じられています。忠実な人々はそこで、主の宮における完全な永遠の祝福にあずかることができます。自分の国で主の命令に従い、主の民の占める範囲を広げ、シオンのステーキを強めるのです（教義と聖約 101 : 21 ; 133 : 9, 14 参照）。このようにして、シオンのステーキは『防衛のためとなり、ま

あらし嵐と激しい怒りが全地にありのままに注がれるときに、その避け所となる……。』(教義と聖約 115:6)」(『リアホナ』2004 年 5 月号, 7 - 8 参照)

### 3 ニーファイ 6:10 - 16, 18, 29

何が原因で多くのニーファイ人は背教したのか。このことは末日のわたしたちにどのような警告となるか。

#### 3 ニーファイ 6:12 繁栄と平和が原因で人は高慢になることがある

・救い主がニーファイ人の間で自ら教え導かれた直後の時代に、民はつかの間の繁栄を享受した。残念ながら、この一時的な成功が原因で、人々は「非常に豊かに富んでいたために高慢になって誇」るようになった(3 ニーファイ 6:10)。

ヘンリー・B・アイリング管長は現代におけるそのような試しについて次のように警告している。「わずかに繁栄したり平安になったりただけで、あるいは、ほんの少しだけ改善したというだけで、わたしたちは自分で十分にやっているとこの気持ちになります。自分の人生は自分でコントロールできる、改善したのは自分の努力の結果であって、御霊の静かで細い声を通じて語りかけてくださる神のおかげではない、といった思いにすぐに駆られます。高慢な思いが心の中に雑音を作り出し、そのために、御霊の静かな声を聞きにくくしています。そして日ならずして、慢心のためにその声に耳を傾けようとさえしなくなってしまいます。そうすると、自分にはそんなものは必要ないという思いになるのも時間の問題です。」(『リアホナ』2002 年 1 月号, 17)

・モルモン書の歴史の中で、民は正義、繁栄、富、高慢、罪悪、破壊、謙遜、そして正義というサイクルを何度も経験した。詳しい情報、高慢の悪循環を描いた表が欲しい場合は、付録から「義と悪のサイクル」の表(398 ページ)を参照する。

#### 3 ニーファイ 6:12 - 13 環境にどう反応するかはわたしたちが決める

・記録には「高慢になった者もいれば、非常に謙遜な者もいた」と記されている(3 ニーファイ 6:13)。どちらの方向へ曲がるかは各自で決めなければならない。十二使徒定員会のマービン・J・アシュトン長老(1915 - 1994 年)は、この原則について次のように教えている。「神から与えられた特権の一つに、様々な状況の中で自分の執るべき態度を選ぶ

権利があります。すなわち、周囲の状況がわたしたちの行いを決めるか、あるいは『清い信心』の原則に基づいてわたしたち自身が生活を管理し治めるかです。『清い信心』とはイエス・キリストの福音を学んで、それを実行することです。自身の生活の一部となって初めて、本当の祝福がもたらされるのです。」(『聖徒の道』1983 年 1 月号, 113)

#### 3 ニーファイ 6:15 - 18 サタンは神に対して故意に罪を犯すように彼らを誘惑した

・前世で神に反抗したサタンは(モーセ 4:3; 教義と聖約 29:36; 76:25 参照) 神の聖徒の間で反抗心をかき立てようとする。故意に罪を犯す危険性は、わたしたちがだれの声に従うかということと関係がある。ベニヤミン王は次のように警告している。

「さて、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたがこれらのことをすべて知った後、また教えられた後、もしもそれに背いてすでに告げられていることに反した行いを[するならば]、……

わたしはあなたがたに言うが、このようにする者は、公然と神に背く者であって、悪霊に従うことを望み、あらゆる義の敵となる。したがって、主は清くない宮には住まわれないので、このような者の内には決して宿られない。」(モーサヤ 2:36 - 37)

・このことに関連して、ニール・A・マックスウェル長老は次のように述べている。「前世で自分の自我を制御することができなかったサタン、このサタンが現世でわたしたちの自我を制御するのを実に軽い気持ちで許すことがある。わたしたちはこのことについてもっと頻繁に立ち止まって考えるべきである。わたしたちは、サタンが前世で直接的に行おうとしたことを拒否した。しかし、この現世で同じサタンが間接的に行おうとしていることをしばしば許しているのである。」(We Will Prove Them Herewith [1982 年], 45)

・M・ラッセル・バラード長老は、サタンの誘惑になびくことがどれほど危険かさらに説明している。

「前世でわたしたちが天の御父の御前を去る前に、御父は地上での新しい経験について警告と注意をお与えになりました。わたしたちは骨肉の体を受けることを知っていました。それまで肉体を持っていなかったため、肉体への誘惑に取り組んだ経験もありませんでした。しかし、天の御父はそれを理解しておられ、わたしたちに肉体を管理し、霊に従わせるようにと命じられました。わたしたちの霊は、肉体が現世で受ける誘惑に打ち勝たなくてはなりません。わたしたちは主イエス・キリストの戒めに従うことにより、サタンの力に打ち勝つ霊の力を得ることができます。……

サタンはわたしたちのいちばん弱い所に付け込み、強い所をくじくような時と方法を選んで誘惑しようとします。しかしサタンの約束する快樂は一時的な偽りにすぎません。サタンのねらいはわたしたちに罪を犯させることです。罪を犯すと、わたしたちが天の御父と救い主イエス・キリストから遠ざかってしまうことを知っているからです。わたしたちは天の御父の約束された祝福から遠ざかり、サタンとその僕たちとともに惨めな苦痛を味わうようになります。罪はわたしたちをサタンの支配下に追いやります。

愛する若人の皆さん、わたしは皆さんが主の戒めを守ろうとして毎日悪戦苦闘しているのを知っています。霊の闘いは



日増しに激しくなっています。敵は強く、狡猾です。しかし、皆さんの肉体の中には神の息子、娘としての力強い霊が宿っているのです。天の御父は皆さんを愛し、皆さんが御自分のもとへ戻って来るように望んでおられるので、皆さんの霊が主の戒めを守っているかどうかを教えてください。良心を与えてくださいました。も

し皆さんが一時的な存在である自分の現世での肉体よりも、永遠の存在である自分の霊にもっと注意を払うならば、常にサタンの誘惑を退け、自分の支配下に置こうとするサタンの働きに打ち勝つことができるのです。』（『聖徒の道』1993年7月号、6 参照）

### 3 ニーファイ 7:15 - 26 ニーファイと彼に従う人々の忠実さ

• ニーファイ人が義になかった生活から離れたのは悲しむべき出来事だったが、救いとも言える点はニーファイおよびニーファイに従った人々が確固として忠実だったことである。彼らの模範を通して、罪惡に満ちた現代にあっても義になかった生活を送り続けるための方法を学ぶことができる。聖文には、ニーファイの個人的な経験から生まれた確固たる証が記録されている（3 ニーファイ 7:15 参照）。そこでニーファイは「悔い改めと、主イエス・キリストを信じる信仰による罪の赦し」について大胆に教えている（16 節）。ニーファイは「主イエス・キリストを信じる彼の信仰が非常に深かったので」力と権威をもって教え導いた（18 節）。また、彼の証に耳を傾けた人々も、それぞれ「神の力と御霊」を与えられた（21 節）。信じた人々は癒され（22 節参照）、悔い改め、バプテスマを受け、「罪の赦しを受けた」（24 - 25 節参照）。

### 3 ニーファイ 7:21 - 25

心を改めた人々は何をしたか。これらの大切な原則に関連して、自分自身はどのような経験があるか。

### 3 ニーファイ 7:21 - 26 完全な改宗

• 十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、完全に改心した人とまだ十分に改心していない人との違いについて語っている。さらには繰り返し改心をする必要があることであり、そうすることにより、着実にイエス・キリストに真に従えるようになると教えている。

「わたしたちは皆、義になかった事柄を常に行っている人々の姿を見えています。そのような人々は……難しい決断を迫られても、いつも正しい選択をします。魅力的な誘いでさえ断って、義を選ぶのです。彼らも誘惑を受けるのですが、意に介しないようです。一方で、決断に際して雄々しくない人々の姿も見えています。そのような人々も、影響力のある霊的な環境に置かれると、より善い人にな……るよう決意します。……でもしばらくすると、断ち切ろうと決意した事柄を繰り返してしまうのです。……」

時々、改心という言葉は、誠実な人がバプテスマの決意をするときの状態を表します。しかし……改心にはそれ以上の意味があり……ます。マリオン・G・ロムニー管長は、改心という言葉について次のように説明しています。

『改心とは一つの信仰または行動から別の信仰または行動へ転向することを意味します。改心とは霊的、道徳的変化のことです。改心とは単にイエスとイエスの教えを頭の中で受け入れることだけではありません。改心とは、イエスとイエスの福音を信じ、行動が改まるような信仰を持つことなのです。変化を生じる信仰、すなわち人生の意義に対する理解、また関心、思い、行いにおける神への忠誠心を実際に変える信仰です。真に改心した人の心からは、イエス・キリストの福音に反するものへの欲望は、実際に消えうせます。代わりに、神の愛、神の戒めを守る確固とした決意が心を満たすのです。』（Conference Report, グアテマラ地区大会 1977 年、8 で引用）……

簡潔に言えば、真の改心とは、『信仰』『悔い改め』『常に従順になること』の成果なのです。『信仰』は神の御言葉（みことば）を聞き、その求めにこたえることにより得られるのです〔ローマ 10:17 参照〕。『信仰』により受け入れた事柄をいわずに行うときに、聖霊から確かな証（あかし）が得られます〔エテル 12:6 参照〕。誤った事柄を行ったり、正しい事柄を行わな



かったりして生じる間違いを『悔い改める』ように導かれます。その結果、『常に従順となる』力が増します。この『信仰』『悔い改め』『常に従順となる』という過程を繰り返すことは、皆さんをより大きな改心、そしてそれに伴う祝福へと導くのです。』（『リアホナ』2002年7月号、26－27 参照）

### 理解を深めるために

- キリストの弟子であることにはどのような意味があるだろうか（3 ニーファイ 5：13 参照）。もっと献身的なイエス・キリストの弟子となるためにはどうすればいいだろうか。
- 3 ニーファイ 6：14 には、ニーファイ人の間に生じた不平等について説明されている。この不平等が原因となって教会はどうなっただろうか。この罪惡の真の原因は何であるとモルモンは語っているか（15 節参照）。自分はほかの人よりも優れていると思い始めると、通常、どのようなことが起こるだろうか。モルモン書の歴史のこの部分は箴言 16：18 の真実性をどのように立証しているだろうか。
- わたしたちは、信仰に伴う行いの大切さ、最後まで堪え忍ぶことの大切さについて教えられている。これらの章にはそのような概念の肯定的な例および否定的な例が記録されている。どのような例を見たことがあるだろうか。そのような例から何を学ぶことができるだろうか。忠実であり続けようとするときに、直接的に関連があるのはどの例だろうか。

### 割り当ての提案

- 3 ニーファイ 1－7 章から個人的な証と改心<sup>あかし</sup>がどれほど大切かを学ぶことができる。一枚の紙を二つの欄に分け、各欄の上の方に以下の二つの見出しをつける。
  1. 個人的な証と改心をもたらす態度、考え、行い
  2. 個人的な証と改心を破壊する態度、考え、行い
 次に 3 ニーファイ 1－7 章をよく読み、該当する欄に自分が見つけた教え、出来事、原則および教義を書き込む。この活動で学んだことについて短い説明を書き、それを家庭の夕べのレッスンで教える。
- エズラ・タフト・ベンソン大管長は、救い主がモルモン書の民を最初に訪れられる直前に起こった出来事と救い主の再臨の前に起こる出来事との間には、数多くの共通点が見られると教えている。ヒラマン 14 章から 3 ニーファイ 7 章までの記述から、「末の日」との共通点があると思う出来事、教え、教義および原則を書き出す。
- 3 ニーファイ 5：13 を暗記する。この聖文の言葉を暗唱するときに、救い主の言葉をほかの人々に宣言する方法について考える。自分自身の信仰を宣言するときに、「わたしは……信じます」という表現で始めるとよい。